

社会福祉法人 大阪キリスト教女子青年福祉会
2019年度 事業計画

〈法人目的〉キリスト教の精神に基づき、あらゆる人々が自分らしく生きることのできる
平和な社会の実現をめざす。

I 保育事業(第二種社会福祉事業)

〈保育理念〉

キリスト教の精神に基づいた保育の中で、乳幼児の育成に励み、一人ひとりの子どもが未来社会の良き担い手となるようにはぐくみ育てる。

1. 大宮保育園

(1) 認可定員・利用定員・職員数

- ・認可定員 180名
- ・利用定員 150名
- ・一時預かり事業定員 10名(満1歳～就学前児童)
- ・職員数 36名(園長1名、保育士/常勤20名・非常勤6名、調理員/常勤4名・非常勤1名、看護師/常勤1名、事務員/常勤1名・非常勤1名、保育補助/非常勤1名)

(2) 保育目標

どの子ども一人ひとり神さまから託されたかけがえのない子どもたち。

子どものありのままの姿を受け入れ、以下のような姿を目標に、本園の保育課程にそって保育する。

- ・どんな小さなことにも感謝することのできる子ども
- ・すべての命を大切にすること
- ・あそびも学びも根気よく集中できる子ども
- ・表現豊かな子ども
- ・仲間を大切に、地域のなかでともに育ちあう子ども

(3) 年間保育目標

「ことばに満たされて ～ひびきあう～」とのキリスト教保育連盟の年主題を園の年間目標として掲げ、大切にしたいことを職員間で共有する。

(4) 保育内容

- ① 乳児保育…育児担当制の実践
- ② 幼児保育…異年齢保育(たてわり)の生活を基盤に、発達に応じた年齢別クラス(よこわり)の活動を取り入れる
- ③ 障がい児のチーム保育、子どもの人権に根ざした保育

(5) その他の取り組み

- ① 地域と協働した子育て支援活動
- ② 地域の小学校との交流
- ③ 地域の人たちとのふれあい、高齢者の方々との交流
- ④ 危機管理体制を充実させ、積極的に苦情処理、防犯、防災訓練に取り組む
- ⑤ 行政・地域と協働しつつ児童虐待、DV予防に取り組む
- ⑥ 職員の資質の向上をめざした研修や、職員会議を充実させる
- ⑦ サービスの質の向上に向けて、ヒヤリハットや事故報告書などを検討し、再発防止に取り組む
- ⑧ 実習生、インターシップ、ボランティアを積極的に受け入れる

2. こひつじほーむ(小規模保育事業)

(1) 認可定員・利用定員・職員

- ・認可定員 12名
- ・利用定員 12名(0歳～2歳児各4名)
- ・職員数 7名(園長1名、保育士/常勤4名・非常勤2名)

(2) 保育目標

子どもをありのままに受け入れ、一人ひとりの心に寄り添い丁寧に関わる中で、以下のような姿を目標に保育する。

- ・基本的な生活習慣を身に付ける
- ・命や物、どんなものも大切に出来る
- ・自分の思いを素直に表現できる
- ・色々なものに興味を持ち意欲的に体験しようとする

(3) 年間保育目標 ことばに満たされて ～ゆったりと あんしんして～

(4) 保育内容

新制度のもとでの小規模保育事業所の役割を確認しつつ日々の保育に務める。

- ・小さい集団の中で家庭的な保育を行う。
- ・親元から離れて初めて出会う大人に十分に受け入れられ、信頼できる大人との出会いのなかで愛され、のびのびと過ごす。(育児担当制の実践)
- ・日々の安定した生活の流れの中で見通しを持ち、安心して過ごす。
- ・スキンシップ、あやし、受容と共感などで満たされた関わりの中で過ごす。(心の育ち)
- ・四季折々の自然に触れて遊ぶ中で五感を育む。
- ・保護者、地域の方、職員が繋が連携し、子どもの成長を見守る中で、一人ひとりの自己肯定感を育む。

(5) その他の取り組み

① 保護者支援

- ・おはなし会 月1回、保護者と子ども達が一緒に楽しく過ごせる交流の場を提供する。
- ・こひつじカフェ 保護者同士がゆっくりとお茶を飲みながら交流できる場の提供に取り組む。
- ・保育参加 子ども達の生活の様子・子ども同士や保育士との関わりを知り、子ども達の成長発達にも気づききっかけ作りを目的として、一日の生活を共に過ごす。
- ・父親の交流会 父親の保育協力が増える中、父親同士の交流を支援していく。

② 地域住民との交わりを積極的に取り組む。

③ 危機管理体制の充実をめざし、苦情処理、防犯、防災訓練に力を入れる。

④ 行政・地域と協働しつつ児童虐待・DV予防に取り組む。

⑤ 職員の資質の向上をめざした研修や職員会議を充実させる。

⑥ ヒヤリハットや事故報告書などの検討に工夫を行い、再発防止やサービスの質の向上につなげる。

II シャロン千里

シャロン千里に隣接している北千里保育園が昨年廃園となった。保育園の隣にある10年前に廃校となった北千里小学校の解体工事がようやく今年から始まる。近隣が新しく生まれ変わっていく。

シャロン千里が地域の施設として、求められる役割はさらに広がっていくだろう。開設当初からめざしてきた幼子から高齢者までが集い交わる中で、安心して暮らせる地域づくりに積極的に取り組んでいきたい。子育てに悩む世代を支えることを目標の一つとし、こども館活動を展開していく。

職員全員が、法人の目的の実現をめざして、それぞれの専門性を活かし活気あふれる職場づくりを目指す。

《シャロン千里基本方針》 ・ 「いのちの尊厳」が守られるケアに力を注ぐ ・ サービスの質の向上に努める
・ 社会貢献事業に取り組む ・ 経営の安定性をめざす

1. ケアハウス(軽費老人ホーム)

新たな入居者の方も共同生活が円滑に送れるよう、一人ひとりの声に耳を傾け、お互いが認め合える環境作りを目指す。クラブ活動や体操、行事など、入居者が居室から出て活動する仕組みを積極的に展開し、予防の視点を重視した施設づくりを目指す。

- ① 定員 50名
- ② 自立支援 ・ 入居者の自主性を尊重し、自分でできることはできるだけ自分でしていただけるよう、職員が見守りつつ支援する。
- ③ 生活の充実 ・ 入居者が個々に発信する情報を迅速にとらえ、それぞれに合った支援に取り組むことで、一人ひとりの生活の充実を支援する。
- ④ 職員の質の向上 ・ 入居者一人ひとりが尊重され自分らしい快適な生活を送ることができるよう、人権擁護に関する職員の意識を高め、外部研修の活用による職員の質の向上に努める。

2. 介護保険事業

(1) デイサービスセンター(通所介護・介護予防通所介護)

機能訓練に重点を置き、利用者の意欲の向上と筋力の維持や増加に努め、季節の行事を大切にして、ボランティアの方々と活気あるレクリエーションを増やしていく。今後も増加する退院後や終末期ケアを充実させる。

- ◆目標 ・ 一日平均利用者数 20名(定員 25名)

(2) ヘルパーステーション(訪問介護・介護予防訪問介護)

2019年4月から総合事業の報酬が下がる見込みである。当ヘルパーステーションの利用者の半数が総合事業対象者であることから、減収は避けられない。要介護サービスの提供を中心とする事業所への移行に力をいれる。

- ◆目標 ・ ケース数 60ケース/月
・ 活動時間 400時間/月 自費利用 12時間/月

(3) ケアプランセンター

特定事業所として、地域包括支援センターや地域医療施設と連携し、支援困難ケースへの積極的な対応を行う。近隣地域では核家族化が進む中、独居認知症高齢者・老々介護等の問題を抱えており、その方々が住み慣れた地域で安全に生活を継続できるようにケアマネジメントを行う。

- ① サービスの質の向上への取り組み
 - ・ 介護支援専門員の担当件数を1人当たり35件とし、質の高いサービス提供に努める
 - ・ 職員研修の充実を図る(認知症ケア・在宅医療・精神疾患・マネジメント技術などに関する研修)
- ② 主任介護支援専門員としての取り組み
 - ・ 地域包括支援センターとの連携、地域のネットワーク作り
 - ・ 他法人事業者との共同研修会(事例検討等)
 - ・ 介護支援専門員実務者研修における見学実習の受け入れ

(4) 介護サポート連絡会

- ① 職員研修の成果を各事業現場に活かせるように取り組む。
- ② 介護保険情報を共有し、総合事業について利用市町村の分析を行い今後の事業運営への方向性を検討する。
- ③ 介護職員処遇改善加算により、介護職員の処遇改善の充実を図る。

3. 受託事業(吹田市)

(1) 留守家庭児童育成事業

子どもたちが互いに話し合い、認め合い、教え合って、主体的に活動できるような環境を整え、安全・安心でよりよい子ども達の育ちを支援していくことを目指す。研修にも積極的に参加し、通常保育以外に隣接する他の育成室や保育園、幼稚園等とも交流を図りながら保育の充実に努める。

(2) 地域包括支援センター

今年度から吹田市の地域包括支援センターは委託のみになることに伴い、委託包括の役割はますます重要になる。古江台・青山台のそれぞれの地域の特色に応じて、医療・介護・民間事業所・ボランティアなどと連携しながら、住み慣れた地域で安心して暮らしていける地域作りを目指す。

(3) シルバーハウジング

日頃からのコミュニケーションを大切にし、入居者の方々が介護予防に取り組めるよう相談活動を行う。緊急時の対応についてトレーニングを実施し職員の質の向上を目指す。

4. 在宅介護支援センター

地域の福祉の窓口として、地域住民の相談活動を行う。

5. こども館(児童館)

こどもの健全育成と子育て支援を目的として、地域の特色を生かした活動を行う。

- ① 親子でいきいきリレーションシップ
- ② 無料開放のオープンデイ(毎週水曜日午後)
- ③ 大宮保育園との交流活動「つみきとお話の家」
- ④ 夏休み・冬休みお楽しみプログラム

6. 介護職員初任者研修事業(旧ホームヘルパー養成講座)

受講期間2ヶ月間の短期間をアピールし、受講者の増員をめざす。また修了生の多数がシャロン千里の職員として活躍している実績を踏まえ、修了後、当施設に勤務する方には受講料の一部を援助する制度を計画し、受講意欲の増進と職員確保につなげる。

7. 全体

(1) 食 事

安全で質の良い食材を確保し、入居者にバランスの良い食生活を送っていただけるよう努める。非常時の備蓄食品の入れ替えとマニュアルの見直しを行う。

(2) 事故対応委員会

ひやりはっと、事故の事例報告・検討を通じて事故防止、再発防止をめざす。

- ① 職員及び利用者の防災について意識を高める。
- ② 事例検討を深め、再発防止につなげる。

(3) サービス品質向上委員会

苦情対応報告やアンケート結果などを、利用者及び家族の声に重点をおいて検討し、サービス内容の見直しとサービスの質の向上を図る。

(4) 社会貢献事業

経済的支援のみに留まらず、その人らしい自立にむけた支援が行えるよう大阪府社協の社会貢献支援員や吹田市内の他の施設と連携を密に対応していきたい。